



平成29年度地域づくり人材養成講座 第4回ワークショップ開催概要

日 時	平成29年12月10日（日） 10:00~12:00
場 所	中津川市坂下公民館
指導・助言者	岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 教授
受講者・来場者	24名（受講者15名、来場者9名）
主 催 者	岐阜県環境生活部県民生活課 中津川市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課
内 容	<p>◆開会</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶（中津川市生涯学習スポーツ課長）</li> <li>指導・助言者紹介</li> <li>本日の流れ</li> <li>講座・活動の振り返り（県・市担当者）</li> </ol> <p>◆活動報告</p> <p>第3回終了後から第4回までに検討した内容をグループごとに発表してもらいました。</p> <p>&lt;男性向けの取り組みグループ&gt;</p> <p>○課題：公民館講座に男性が参加してくれない。</p> <p>○活動：まずは男性がどう考えているのかを把握する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アンケートを作成【完成】 （項目：公民館講座への参加の有無、参加しない理由など）</li> <li>②アンケートを実施し、公民館講座に反映していく。 →アンケートは、閲覧板を利用し、実施したい。</li> </ol>  <p>別案件で全戸配布アンケートを実施した際、3割ぐらいしか回答がなかったことや、男性はアンケートすら面倒くさいと思うのではないかなというような、アンケート実施の難しさについての意見が来場者等からありました。</p> <p>◎益川先生コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回収率は低いかもしれないが、ひとまずやってみるとよいと思う。回収できた中に、よい意見があるかもしれない。少ないながらも聞くことはよいことだ。</li> <li>・感覚的にだが、歴史をテーマにした講座は、比較的男性の参加率が高いと感じる。参考にしてほしい。</li> </ul> <p>&lt;川の活用グループ&gt;</p> <p>○課題：豊かな川に恵まれて生活しているのに、その良さが生かされていない。</p> <p>○活動：環境整備に取り組みつつ、子どもたちが川に親しみを持つ講座やマップ作成を行う。</p>  <p>☆講座内容（案）：子どもたちに、地域の川に生息する魚や魚釣りの方法を教え、実際魚釣り体験をしてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイント①子どもたちが、川に親しみをもつようになることで、川の環境保全・清掃活動の大切さが分かるようになる。</li> <li>・ポイント②学校、公民館、漁業組合、民間業者との連携しながら講座を実施する。</li> <li>・ポイント③魚や魚釣りの方法などを説明するパネルは、共有で使用できるようにして、各地区で簡単に講座を開講できるようにする。</li> </ul> <p>◎益川先生コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館単独で、講座を実施するのは様々な面で大変だと思う。いろんなところを巻き込んで講座を実施することはいいことだと思う。</li> <li>・特に学校と連携するのはよいのではないかな。学校側からも今後連携したいというような話があるかもしれない。</li> </ul>

### <情報発信>

- 課題：①情報がうまく伝わっておらず、地元の人が地域のことを知らなかったり、情報が周知されていない。②きりら坂下（道の駅）がうまく活用されていない。③坂下地区の文化・歴史を伝える子ども向け資料がない。



- 活動：①それぞれの施設の利用者に情報が伝わりやすいように工夫を凝らす。  
→坂下総合体育館に棚を追加し、チラシなどをたくさん設置できるようにする。  
→坂下総合事務所のホームページに、「やさかイキイキ倶楽部」（地域でスポーツ活動や文化活動行うNPO法人）のリンクを貼る。  
→坂下公民館の情報発信スペースにあるパンフレット等を分類ごとに見出しを付けて配置する。【完成】
- ②きりら坂下を人が集まる活気あふれる場所にする。  
→ボランティアや中高生、各種団体などに協力してもらい、四季を楽しめる景観を整備。  
→インスタ映えする景観や料理を情報発信する。  
→講座やイベントを開催し、地域の人も集まれる場所にする。
- ③子どもでも分かりやすい資料を作る。例）加子母「明治座さーん」の絵本  
④坂下地区が一目で分かる手作りマップを作成する。

### ◎益川先生コメント

- ・現状分析がよくされており、かつ実際にレイアウト変更もしておりすばらしい。
- ・道の駅は、学校教育でも注目されており、道の駅を積極的に活用するというのは、よいことだと思う。
- ・SNS等デジタルな部分と手作り地図というアナログな部分、その両方があるのはよいことだと思う。

### <世代間交流>

- 課題：①地域の母親たちの多くが、市外出身者のため、あまり地域を知らない。②ヒト、土地、心の空洞化が進行している。③気軽に交流できる場や学ぶ機会が少ない。



- 活動：一人一人が主人公として参画し、地域に誇りと愛着が持てるようなイベント等を実施する。

- ☆イベント・活動例：交流スペースづくり、民謡など文化を伝える教室開催、昔の遊び体験会、郷土の料理教室、小・中・高校生との交流会、三世代ふるさとふれあいまつり、発表会 等  
→地域の実情に合わせて可能な範囲で取り組む。モットーは「ゆっくり急ぐ！」。

### ◎益川先生コメント

- ・「一人一人が主人公」というのがポイントだと思う。世代間交流というと、一方向というものが多いが、相方向になっているのがよい。
- ・交流スペースは、縁側的な気軽なものがよい。

### ◆グループワーク

- 来場者の方にも、興味のあるグループに入っていただき、今後さらにどんなことができそうか、どうするとさらにより活動になるかを話し合いました。来場者の方の知識や経験を生かしたご意見のおかげで、今後の活動がより実りあるものになりそうです。



◎益川先生のまとめ



- 地域づくり活動をする際は「3つの手」を大事にしてほしい。①挙手…やる気を持って、自ら手を挙げる。②握手…様々な人や団体と連携して実施する。③拍手…みんなで盛り上げ、お互いに尊敬しあえる雰囲気づくりをする。皆さんは、既に挙手していただいているので、今後、握手・拍手することを大事にしながら頑張してほしい。

- 半分水が入ったコップを見てどう感じるか。「半分も入っている」「半分しか入っていない」「残り半分を自分で入れよう」など客観的事実は同じでも、捉え方によって事実は変わってくる。今回の講座は、半分水が入ったコップのようなものだ。みなさんには、是非「残り半分を自分で入れよう」と思い、是非活動を続けて行ってほしい。



1 挨拶（中津川市生涯学習スポーツ課長）